



定期テストについて

中学校・高校の定期テストは出題範囲が広いので、計画を立てて学習を進めることが大切です。また、定期テスト後にやっておくべきこともあります。定期テスト対策の流れを確認しましょう。



定期テスト対策の流れ



定期テスト1ヵ月前・・・目標点数を決め、学習計画を立てる

前回の定期テスト結果や振り返り内容を確認し、今回の目標点数と、その達成に向けて「いつ、どこで、なにを、どのくらい勉強するのか」を具体的に決めましょう。

「定期テスト範囲が広くて終わらない」という事態を防ぐために、やるべきことを明確にすることが大切です。また、学習の進み具合に応じて、計画を柔軟に調整することも必要です。

定期テスト前日まで・・・学習計画に従って対策を進める

問題演習後は、各問題の横に○△×の記録をしましょう。

「○」・・・一人でできた問題

「△」・・・解答解説を見て分かった問題

「×」・・・解答解説を見ても分からなかった問題

×がついた問題の解き方は、教科書やプリントで確認しましょう。

△×がついた問題は、解けるようになるまで繰り返し解き直すことが重要です。



定期テスト期間中・・・最終確認をする

定期テスト当日の時間割に注意して、目標点数を取る為にどの教科や単元を優先して学習するかを考えて取り組むようにしましょう。

定期テスト後・・・定期テストの解き直し・振り返り

定期テストの解き直しと「頑張ったこと」と「もっと頑張りたいこと」の振り返りを行うことで、次の定期テストに向けて早めの準備ができるようにしておきましょう。



↓過去の情熱通信はこちらから！



定期テスト範囲表は、もれなく内容をチェック！

定期テストの2週間前頃には、定期テスト範囲表が配られる学校が多いです。
出題範囲以外にも大切なことが書かれている場合があるので、よく確認しましょう。

【定期テスト範囲表の例】

教科	定期テスト範囲	② 提出物	③ 学習のポイント
国語	① ・教科書 P●～●● ・漢字ドリルP●～●● ・条件作文	授業内で指示します	・教科書をよく読む ・漢字は読み・書き どちらもできるようにすること
数学	・教科書 P●～●● ・ワーク P●～●●	・ノート ・ワーク 定期テスト当日に回収します	・用語や規則も覚えること
英語	① ・教科書 P●～●● ・ワーク P●～●● ・単語帳 P●～●● ・初見の長文問題	・ワーク 定期テスト当日に提出してください	・基本文や単語を覚えること ・基本文を使って、 自分のことが書けるようにすること

学校によって定期テスト範囲表の書式は異なりますが、特に①～③のような項目が記載されている場合は、その内容をよく確認し、準備を進めましょう。

①教科書以外の定期テスト出題範囲

学校ワークや授業中に配布されたプリントなど、教科書以外の教材が定期テストの出題範囲に含まれることはよくあります。学校ワークは、定期テスト1週間前までに最低でも2周は解き終えるようにしておくとい良いでしょう。

また、「条件作文」や「初見の長文問題」のように、定期テストの出題形式があらかじめ予告されることがあります。

②提出物

提出物の提出状況も成績に影響します。「いつまでに、何を、どのように提出するのか」を確認し、期日までに余裕をもって準備しておきましょう。

③学習のポイント

各教科の先生から「できるようになってほしい内容」が示されることがあります。しっかりと身につけたうえで定期テストに臨みましょう。

